

Our vision

だれもがまるごと受けとめられる社会

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。今の子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間やまるごと受けとめられる経験が少なくなっています。大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、さらには、地域社会においても、その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブなどで多忙な毎日を送り、仲間も、時間も、空間もなくなりつつあります。

私たちは、まるごと受けとめられる場づくり

をしたいという思いで

居場所づくり事業 や 出会いと学びを育む事業 などを行っています。

事業内容

1

居場所づくり事業

月ようわっか、金ようわっか、日ようわっか、waccafe、のっぱらわっか 平日わっか、さかっこクラブ(放課後児童クラブ)

2

出会いと学びを育む事業

寺子屋わっか、こどもの夢中全力サポート事業、講演会

若者の生活・就労支援

3

その他

コロナ対策緊急事業

わっかの目指す姿

だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して、

居場所づくり活動を中心として活動しています。

日々、わっかに集まる人と過ごす日常を何よりも大事にしています。

そんな中で、様々な声を聞くことがあります。

それは、その人の生きづらさの吐露であり、

僕たちはそれに寄り添いたいと考えています。

わっかの企画はすべて、

そんな小さな弱い、でも確かな声をきっかけに 立ち上げてきたものばかりです。

今、出会うあなたへ 私たちができることをやり続ける それが "わっか"です。

月ようわっか 毎週月よう日 15:30~20:00 居場所づくり事業

53 回 のベ人数 こども 1159 名 (735 名)

208 4 (73 4)

※()内の人数はご飯を食べた人の数(持ち帰りも含む)





今年度の月ようわっかは、当初から多くの子ども達が訪れてくれていました。多い日で、40名以上の子どもや 若者がわっかにやってくる日もあり、うれしい反面、居場所としての役割が機能しなくなってきていました。人 が多過ぎることにより、スタッフが子ども達とゆっくり話したり、過ごしたりできなくなっていました。また、 周辺住民とのトラブルになるような場面もあり、明らかに場所のキャパと目指していることとのバランスが取れ なくなっていました。それもあって、番外編でご紹介している金ようわっかもはじめました。

しかしながら、月ようわっかとして、ずっと、こだわってきた月曜日にいつでも開いている放課後の居場所と しての定着がある程度できたからこそ、多くの子ども達が訪れてくれているのだと思っています。ただ、毎回の ように参加してくれる子ども達、要はリピーターが多いことは気になっていました。ボク達は、居場所づくりと 言いながら、この場所に入り浸ってほしいとは全く思っていないので、むしろ、ふと思い出したときに、訪れる 場所になるといいなと思っています。その方が、その子やその人と長い間お付き合いできると思うからです。

年明けから新型コロナウイルスの感染拡大により、居場所づくり活動も縮小をせざる得ないような状況になり ました。その結果、訪れる子ども達は大きく減りましたが、それでも必要としてくれる子どもや若者はずっと来 てくれています。それで良いと思っています。これまでに訪れてくれていた子達も、また、ふと思い立ったとき に、わっかに来てくれるでしょうから。

金ようわっか (金曜日 17:30 ~ 20:00)

のベ人数 こども 138 名 大人 26 名

月ようわっかの人数が多すぎることでゆっくり過ごすできない子ども達がいました。そんな彼らの声に応え て、年度中の9月から、金曜日の夜にもひっそりと開けるようにしました。少ないながらも、これまで話す ことができなかった子ども達とも雑談ができるいいきっかけになりました。

日ようわっか 日よう日 10:00~15:00 ₁₅ _{10:00} _{10:00}

12 回 のベ人数 こども 139 名

大人 94 名 / ボランティア 11 名









ただ古民家をあけているだけです。イベントもないし、専門家と呼ばれる人もいません。それでも、ここでみんなで同じ時間を過ごすことで、日ようわっかが終わると LINE には、「ここがあることで、1週間がんばれる」「子育てについて同じしんどさを抱えていることを知って、少し楽になった」とメッセージをくれる方がいます。

子どもたちも「また行きたい」と言ってくれたり「次いつか聞いてきます」と保護者を通じて教えてもらうこともあります。この子たちと時間を重ねることで、この先、もししんどくなったときに、わっかのことをおもいだして、月ようわっかなどに来てくれたいいなって思っています。

なんでもない日々を重ねることの意味のようなものを、ここにくる人たちから教えてもらっています。

Waccafe 金よう日 10:00~13:00 居場所づくり事業

32回 のべ人数 58名

ゆっくりとした空気の中で、用事と用事の合間の暇つぶしであったり、 仕事の気晴らしであったり、お庭を眺めるために来たりと、好きな場所で 好きな過ごし方をされていました。意外にも、物品寄付を持って来てくださ る方が多く(米原学区外の方も)色んな形で支えてくださる思いに触れるこ とが出来ました。





のっぱらわっか 日よう日 10:00~夕方 居場所づくり事業

6回 のべ人数 51 名

野天の下、広い野原で好き好きに過ごす。雨に見舞われた時には、ずぶぬれになりながら遊び、強風の時はパラソルを広げて自分も浮いてみたりして。山に登りだす子、火を起こしに夢中の子、本を読んで動かない子、ごっこ遊びをはじめる子、自分がやってみよう!にチャレンジできる場所として開催しました。今年度の開催回数の減少の理由として、夏の猛暑に見舞われ、熱中症予防からお休みせざるを得なくなってしまった事、隣家からの火事で倉庫が全焼した為、遊び道具も燃えてしまい、十分な環境設定が難しくなった事が理由としてあります。夏からしばらく、お休み期間を設けることにはなりましたが、その分、古民家開放の事業に注力し、古民家がより居場所として定着するよう取り組みました。





放課後児童クラブ さかっこクラブ 居場所づくり事業

(f)—(土) **280 回以上** 登録児童数 **20 名**

今年は、クラブ運営 2 年目になります。学童保育とはいえ、子ども達の居場所をつくっているという意味では、 古民家を開いて居場所を提供している月ようわっかや日ようわっかと変わりません。まず、いかに子ども達に安 心して過ごしてもらえるかを常に念頭におきながら、保育を実施してきました。

その前提の上で、私達は、様々なチャレンジを続けています。私達が運営するクラブは公設のクラブなので、他と差別化して顧客獲得に必至になる必要はありません。だから、手を抜こうと思えば、手を抜いて、それなりに運営することもできます。しかし、それでは、おもしろくないし、学童保育という分野の発展にもつながらない。だから、私達は、常にクラブ運営の中で挑戦をし続けながら、運営をしています。公設のクラブという条件下で、どこまでやれるかの挑戦を続けています。

今年は、安全に最大限に配慮しながら、川遊び企画も実施しました。また、去年に引き続き、学校が長期休業期間中の、昼食の提供も積極的に実施してきました。スタッフ育成のための独自研修も積極的に実施しました。

学童保育に通う子ども限定にはなるけれども、放課後の居場所を充実させ、その場が職業として成り立つ職場として醸成されるように、さらなる努力を続けていきたいと思います。





平日わっか 平日(火・水) 10:00~13:00 居場所づくり事業

83 回 のべ人数 145 名

平日の昼間にあけることで、その時間だから来れる人との時間を重ねてました。 近所のおばあちゃんたち7人が月に1回集まって一緒にご飯を食べたり、学校に行かな い選択をしている子ども達や地域の乳幼児と保護者の方が過ごす場となりました。













寺子屋わっか 水よう日 18:30~20:00 水よう日 18:30~を育む事業 出会いと学びを育む事業

43回 のべ人数 160名

「テレビの音も周りもうるさすぎる!」「宿題する場所がほしい!」 大人数兄弟の子が声を上げた事からはじまった寺子屋わっか。 小学生から中学生の子ども達がスタッフと一緒に学習しています。





小学3年生から中学2年生までの同じ顔ぶれが1年間通して来ていました。12月以降から大学生ボランティアが来てくれて、当初は恥ずかしがっていた子供たちも積極的に「勉強教えて一」と話しかけるようになっていき、自然に学ぶことを進んでやる雰囲気になっていました。

不登校の子どももほぼ毎回来ていたので、学校のケース会議に呼んでいただく機会があり、その子の様子をお話しさせてもらいました。その結果、学校の課題を積極的に行っていること、高校進学についても意欲的との判断から「寺子屋わっか参加=学校出席」と見なす方向で検討していただけることとなりました。結果的にですが、わっかで生きづらさを抱えた子どもを支えるきっかけが生まれたこと、嬉しく思いました。



子どもの夢中 子どもの夢中 全力サポート事業 全力サポート事業 出会いと学びを育む事業

参加者 小学生 4 名 中学生 3 名



子どもがまるごと受けとめられる経験をし、夢中になれるものを見つけ、安心して自分が夢中になるものを やりぬくことで、結果的に成長することを目的とした事業です。

そのために、小中学生に、彼らが夢中になるものをやりたいように突き詰めるサポートを、一緒に過ごすスタッフやと子どものやりたいことの分野における専門家が行いました。スタッフと専門家が、子どものやりたいことを見守りつつ、必要に応じて、学習面、生活面までサポートし、結果として、子どもの学力の向上を目指しました。

3日間限定無料学習会(特別企画)12月25日(水)~27日(金)

【 参加者 】 のべ $oldsymbol{1}$ $oldsymbol{0}$ 名 大学生スタッフ $oldsymbol{3}$ 名 ボランティア $oldsymbol{1}$ 名

(株式会社PRO-SEED 様とのコラボ企画)

保護者からのコメント

- ・3日間お世話になり、ありがとうございました。
- ・子どもたちはとでも充実した時間を過ごしたようで、3日間が終わってしまって名残惜しそうにしています。
- ・家では、なかなか進まない宿題を見ていただいておかげで終えることができました。感謝しております、また、イベントなどがありましたら参加したいと言っています。





→ 子供の未来応援国民運動

居場所づくり サミット 出会いと学びを育む事業

講演会 **33 名** 交流会 **11 名**

2018年より1年に1回開催している居場所づくりサミット。

みなさんのご参加により、今年で3回目を迎えました。今年度は、宮田隼さんと 小林由枝さんをお招きして「居場所づくり」についてみなさんと考えました。

佐藤真紀さん(ファシリテーター担当)の Facebook より抜粋

小林さんより「来たいなら来ていいよ」というスタンツで行っている居場所の活動紹介がありました。小林さんからは「(今の子どもたちは暇と言える時間が少なく)暇だっていえるのは、とても大切」と、子どもたちに接する時に大切にされているポイントをお話しされていました。また、小林さんの素朴な語り口調で、「〇〇さんだからできるんじゃなくて、私にもできるかなと思ってもらいたい」と語りかけられました。

つぎに、ひとのまの宮田さんが「ただ一軒家を 24 時間空けているだけ」と語り始められました。その実践は独特なもので、子どもや若者、そしてふらっとやってくるホームレスの方、刑余者の方といった多種多様な方との交流が紹介されました。宮田さんは「それまでに得てきたものが欠落している状態の若者なんだから、逸脱していて当然」と語られます。

パネルディスカッションでは、参加者同士の交流もまじえて「居場所」について考える時間としました。 今回は、運営といった団体のお話もさるものながら、関わっている人たちのリアルな収入状況に迫りつつ、活動を継続することと、自分の生活を両立させることの困難性について明らかにしてみました。私たちの活動は根性論や、多業種での生活で成立させるのがこうした立場だとの文脈で語られる事もありますが「ふつーの人がふつーに生活できる」ことの大切さを語る一方で、支援者の生活を担保しないのでは、継続ができません。また、それぞれの実践報告をもとに、それらの実践をどう普遍化しつつ、他の地域へ変数として活用するかを考える時間でした。

そして、少し話題を広げつつ「居場所」を考えてみました。居場所づくりを行われている団体は、広い意味での社会的養護機能をもっていることはこれまでにも語られてきましたが、それ自体がスタート地点から、国家が作ってきた子どもや若者に対する外的事項に対するアンチテーゼとして民間から起こってきたものであり、日々を重ねることの困難さが増えていることをつまびらかにしてみました。根っこには、人が人であるだけで尊重され、大切にされていく「人権」のお話であり、既存制度ではそれがないがしろにされているからこそ、こうした活動が発生してきたという背景も考えながら、日々の実践現場へと帰っていってもらえればと思いながら。





10 代から 20 代の若者 🌀 人

今年は、高校生の若者がわっかに訪れてくれるようになり、その子達とも継続的につながることができました。また、関わっていた若者の紹介で転職のサポートをさせてもらった若者もいます。どの若者においても行政支援からこぼれ落ちていること、行政の介入を極度に避けること(過去の介入が原因となって)が多く、時間をかけて関係を築いていく必要があります。生きることに必死であった彼らにとって未来を見据えての生き方、考え方は難しく、彼らと共に彼らの「今」と向き合う事を基本姿勢として、小さな事にも過敏な彼らとの距離感を大切にしながら、見守り続けることを一番にしながら日々彼らと関わっています。また、生活基盤が整っていないことが多いので、生活力を身に付けるお手伝いもさせてもらっています。今後も、細く長く見守りをしていくつもりです。

若者支援で クラウドファウン ディングを実施

若者に「明日」生活するための資金を届けたい

NPO法人わっかでは「誰もが、まるごと受けとめられる社会をつくる」ために、主にこども若者に向けて居場所づくり事業を行っています。2014年よりはじめた活動は、常連の子ども若者が増え、様々な環境で生きる子ども若者達に出会います。

出会った若者達の中には、明日生きるお金すらなく困り果てている若者がいます。頼る親もいない、頼り方もわからない。行政の支援や家庭訪問では自分の本当の困り事を話せない。彼らは話したくても、そういう関係を築こうとしてくれないのです。そんな若者達に、皆さんの寄付で、明日への希望を届けさせてください。

以上の内容で、2019年12月にクラウドファウンディング企画を実施し、

目標金額 20 万円に対して、

244,232 円 のべ 46 名からのご寄付をいただきました。

コロナ対策 緊急事業 居場所づくり

平日 13 回 のべ人数 92 名

■ 実施の経緯

「学校休校になり、息子たち2人が学童保育にも預けていないので、1日家で過ごすことになる。」「家から出ないように言っているから1日中ゲームをするのだろうけど、外出するよりいいかな。」「ただ、1日子どもたちにしているのも不安だから、わっかが開いていたら嬉しいな。」わっかに、今までも来ていた子の保護者の声に応える形ではじめました。Covid-19 予防対策として、換気、手洗い、施設消毒を実施しました。

■ 結果

わっかに自転車で来ることができる距離にいる、一人で過ごす子どもたちが、毎日約7名来てくれました。 「はじめまして」の子どもも4名いて最初は、緊張してあまり喋らなかった子が、慣れてくるうちに「ふりか どー」と呼び捨てにしてくれるようになりました。そういう関係を、この機会に新たに築けたことがとても良 かったです。また、保護者からは「不安が少し和らいだ」とのコメントも頂きました。











新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度2月末に突然、実施された学校休校に対しての米原市における放課後児童クラブの受け入れに関する姿勢に疑問を感じ、児童クラブを受託する法人としての姿勢を示すとともに、通常の学校休業期間の受け入れと同じように午前中からの受け入れ実施するための支援員確保の誠実かつ適切な予算処置を講じるように市長に申し入れを行いました。

令和2年2月28日

新型コロナウイルス対策に関する児童クラブの方向性について(要望)

米原市長 平尾道雄 殿

特定非営利活動法人わっか 共同代表 振角大祐 柳生のび

余寒の候、貴職にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。 日頃は市政に対する熱き姿勢を示してくださり、厚く御礼申し上げます。

さて、私ども特定非営利活動法人わっかは、2017年の法人創立以来、一貫して人をまるごと 包み、受けとめ、見守る居場所づくりを推進して参りました。また、2017年来、貴市より放課 後児童クラブの運営を委託され、現在までその事業目的である保護者が就労により、放課後保 護者が家庭にいない子ども等に対して、適切な遊び場と生活の場を提供してきました。今回 は、27日に新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、安倍晋三内閣総理大臣が公立学校の 臨時休校を行うように各自治体に要請がなされました。他方で同日夜、厚生労働省は「保育園 と学童保育は一斉休校の対象ではない」旨の会見を行いました。今回、私共は放課後児童クラ ブを受託する法人として、以下の申し入れるものであります。

第一に、厚生労働省の見解に基づき、小学校の臨時休校中について放課後児童クラブは長期休暇中と同様の対応を取り、開所することを要望いたします。そもそも、本事業目的は保護者が就労により日中に適切な保育が行えないことを社会的に補完するものです。今回の学校休校中も、放課後児童クラブを利用する世帯の保護者は当然に就労中であり、日中の保育を行うことができません。したがって、当法人の方針としても開設を行うことを強く要望いたします。なお、当法人が受託する児童クラブにおいては適切に感染拡大防止を図るとともに、当児童クラブ関係者より感染者が出た場合は通達、基準に則り閉所致します。

第二に、令和元年度当初の委託予算においては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う公立 校の休校処置は予見されておらず、従って支援員の確保に対する予算も設定されておりませ ん。貴市と当法人はお互いを信頼し、尊重し、協力しあい本事業を運営してきたものと信じま すが、今回の緊急処置に関して、支援員確保への誠実かつ適切な予算処置の対応を求めます。

これはひとえに、その受益者である米原市民・子どもの生活保障を願うためです。行政制度 で何よりも大切なのは、その目的にあり、その目的を見誤ると、どんなに良い政策でも無力に 期します。放課後児童クラブの事業目的と児童福祉の本旨に基づき、上記2点を米原市に申し 入れます。

多くの方にご賛同いただいた結果、3月5日より開設時間の繰り上げが実施され、概ね、要望を聞き入れていただく結果となりました。みなさま、本当にありがとうございました。



▼講演

●岐阜県海津市社会福祉協議会 8月

「子どもの居場所づくり研修会」にて



わっかの「居場所づくり」の基本であり、活動のベースとなっている「月ようわっか」「日ようわっか」のことを 中心に、大事にしていることをお話しさせていただきました。

▼視察

●滋賀県立大学 後藤ゼミ 6月から3回にわたって





子ども食堂の研究対象として、わっかの活動を3回にわたってきてくださいました。視察をした後、実際に、自分達で遊びやお昼ご飯を作ってくださいました。回を重ねることで、大学生と話をできることを楽しみにしている子もいました。

●ぎふ学習支援ネットワーク 8月

「居場所ってどんなところ?」



岐阜県で、学習支援をされている団体の学生さん達が「月ようわっか」の視察にきてくださいました。のびさんから活動の思いや大事にしていることをお伝えさせていただきました。

●滋賀県彦根市主任児童委員 9月

テーマ:子どもの自由な心と自主性を育む活動の一端を見聞し、今後の取り組みに生かす わっかの『居場所づくり』の基本である『月ようわっか・日ようわっか』のことを中心に、個別の関わり、思 いなどをお話させていただきました。

(講演後のエピソード)

「わたし、ある子ども食堂を手伝いに行っているんだけど、そこは子どもに注意とか決まりを教えることを大事にしているの」「わたしは、そういうのが苦手だし注意をする必要ないと思って、注意せずにいたんだけど、どうしようか、と迷っていた。」「きょうの話を聞いて、今のままで、いいんだと思えたの、ありがとう。」とおっしゃってくださいました。

注意とか決まりを教えるより、見守りを大事に思う方が1人でも増えたり、「いいんだ」と思って続けていってほしいです。『わっか』が、そのきっかけになれたなら嬉しい限りです。



●しが NPO センター 10 月

「人育ちプロジェクト」の一環として、わっかの視察にきてくださりました。

4年ほど前に振角も、以前の職場で「人育ちプロジェクト」の前身の「若人エンパワープロジェクト」に参加させていただいていました。その際にNPOのことについて、とくにボランティアやファンドレイジングについて学ばせていただいたことを、今も覚えており「わっか」の活動に活かすことができています。

わっかをはじめたきっかけ、わっかの活動全般、活動への思い、大事にしていることを受講されている方にお 話させていただきました。

● 2名 10月

東京で、子どもに関わる活動をされている方、滋賀県内の大学生など、わっかでは毎月のようにありがたいことに、見学のご依頼をいただいております。ご依頼に関しては、可能な限り受け入れをさせていただき、見学の後などに、わっかのことを直接お話させていただくこともしています。

●静岡学習支援ネットワーク 11月

静岡学習支援ネットワークの5名が見学にきてくれました。活動をよりよいものにするために。当団体の活動の 様子を見学したいとのお申し出でした。

●2名 11月

■ 社会人1名

子ども達とひたすら遊び続けてくれました。引っ掛かりがすこしとれたような様子で、帰りは満足そうに帰られました。

■大学生1名

大学の研究で子ども食堂をテーマにしてくれている方が来てくれました。他の子ども食堂と比べると圧倒的に 自由な場だとおっしゃってくださいました。

●滋賀大学 加納ゼミと滋賀県立大学後藤ゼミ





両ゼミが共同研究として子ども達と「MESH を使ったあられ作り」を行っていました。今回は、その研究の実験を日ようわっかの子どもたちと実施してくださり、厚さや、乾燥期間の異なる薄い餅をコンロと七輪で焼き比べて、食感や味がどう変わるかを試しました。

活動説明会

参加者 7 名

9月に、わっかとして、はじめての活動報告会を行いました。まずは、いまわっかのことを知ってくださっている方に、わっかのことをより知って欲しいと考え、開催しました。当日は、わっかに来ている方、わっかのことを知ってくださっている方、活動を支えてくださっている方に来ていただいて、活動の思い、社会的な背景から活動する意味をお伝えいたしました。はじめましてではない方に、改めて「わっか」のことを話すのはいいものですね。終わった後、わっかに来てくださっている方がわっかに来るきっかけなどエピソードを話してくださったり、来てくれた方たちで話ができたりしたのもいい時間になりました。



また、活動報告会の前に、わっかの庭の手入れをしてくださっていました。報告会に来てくださるだけで、嬉しいのに、ありがとうございます。おかげさまで入口周辺がとっても綺麗になりました。

行政との協働事業

わっかが、これまでの居場所づくり事業や NPO として事業を実施する中で得たノウハウを活かして、米原市役所と協働事業をおこないました。具体的には、

- ・ 市内で居場所づくり活動を実施することで、地域住民にとっての居場所をつくる
- ・ 居場所づくりサミットを通じて、居場所づくり活動の啓発や市内での認知度向上
- ・ 市内で居場所づくりをする他の団体との連携、アドバイス

を行いました。

2020 年度は、居場所づくりを行なっている NPO や市民活動団体が運営を継続して行えるための仕組みづくりなどを引き続き協働事業として行なっていきます。

台所の改修

わっかの台所を、カフェとして営業できるように改修しました。 改修にかかる費用は『キューピーみらいたまご財団』の助成金を使用しました。



団体からの 助成金 補助金

支えてくださった企業・団体の皆様(敬称略)

米原市役所 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 社会福祉法人 米原市社会福祉協議会 平和堂 (県社会福祉協議会を 全国食支援活動協力会 通じて) JA 農協 (県社会福祉協議会を通じて) 2000 縁やさい箱 みらいたまご 財団 タノシニア合同会社 親和農場



わっかへの 寄付

正会員 14 名(団体 1 団体) 賛助会員 3 名

マンスリーサポーター (定額ご寄付) 14 名 (昨年度3名)

単発ご寄付 12 名 (昨年度 6名) 寄付金額 895₇204 円

の寄付をいただきました。ご寄付はわっかの活動のメインである古民家開放のための運営維持費(家賃、光熱水費、消耗品費、食材費等)に使わせていただいています。

現在もサポーターは増えており、みなさんのご支援のおかげで、わっかの活動を続けられていることに、心よりお礼を申し上げます。これからも、わっかの活動を通じて「誰もがまるごと受けとめられる社会」づくりを行なっていきますので、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

●物品でのご寄付

お米や野菜などは子ども食堂の材料として、おもちゃや、古本などは、わっかで過ごす時間が充実したものになります。昨年度いただいたものの一部をご紹介します。

古本、おもちゃ、お菓子、タオル、冷凍食品、乾麺、季節の野菜いろいろ、エレクトーン、ノート、ゼリー、インクジェット、子供服、果物、ラーメン、チロルチョコ、靴、長靴など



2,019年度活動計算書

2019年 4月 1日 ~ 2020年 3月 31日 まで



団体名 特定非営利活動法人わっか

住所 〒521-0012 滋賀県米原市米原 178 番地 5

電話 070-1803-1059 (代表)

メール wacca235@gmail.com

ホームページ

Facebook

Twitter







Ameblo では、のびとあすかの思いや月ようわっかの様子を見ることができます。



note では、だいのすけが、わっかで過ごす日々から感じたことなどを書いています。



You Tube では、わっかの様子を動画で見ていただけます。

